

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

199 幸せを運ぶ切手と郵便ポスト（2023年10月3日）

パリのシャンゼリゼ通りの近くで開かれている切手市には、フランスの古い切手や切手が付いた封筒、世界各国の切手が売られています。この中で、偶然に日本のお年玉切手シートを見つけました（写真右）。これは、年賀はがきの抽選で当たった人がもらうことができる切手です。



日本には、新年に年賀状を出す習慣があります。毎年、日本郵便が発行する年賀はがきには、抽選用の番号が印刷されています。一月中旬に抽選会が行われ、抽選に当たると景品と引き換えることができます。一等は100万本に1本の確率ですので当たる可能性はほとんどありませんが、お年玉切手シートは100枚に3枚程度の確率で当たりますので、切手シートを手に入れる可能性は十分にあります。お年玉切手は、その年の干支にちなんだデザインで、毎年デザインが変わります。私が子供の頃は、今年は何枚の切手シートが当たるかとわくわくしながら、両親や祖父母宛てに来た年賀状の番号も確認して、お年玉切手シートをもらうことを楽しみにしていました。

切手市で見つけたお年玉切手シートは、1994（平成6）年に発行されたものです。この年は、戌年でしたので、犬がデザインされた切手です。お年玉切手は、はがき用の切手と封書用の切手がセットになっています。当時は、はがきが41円で、封書の基本料金が62円でしたが、現在はそれぞれ63円と84円になっています。

このほかに、1989年にサン=ピエール=エ=ミクロンで発行された5フラン切手も見つけました（写真右）。（サン=ピエール=エ=ミクロンは、カナダの近くにある大西洋に浮かぶ島々から構成されるフランスの海外準県です。）二人の柔道家の背景には笹が描かれた扇、周囲には漢字で「柔道」の文字、フランス共和国を意味する「RF」、サン=ピエール島の灯台や花がデザインされています。扇の脇には、「サン=ピエールにおける柔道の25年」と書かれています。サン=ピエール島にある柔道クラブのウェブサイトによると、1963年にこの島で柔道が始められたとあります。サン=ピエール=エ=ミクロンは、合計で約



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

242 平方キロメートル（大阪市より少し広い面積）で、人口は約 6000 人です。大陸を超えて、フランス領土の津々浦々にまで柔道愛好家がいることがわかります。ここに、現在のフランス柔道の強さがあると思いました。

日本に郵便制度が導入されたのは、1871 年のことです。郵便は、明治時代になって、近代化のために取り入れられた数々の社会システムの一つでした。それから 150 年後の 2021 年に、日本郵便とラ・ポスト（フランス郵政公社）が共同で作成して発行した切手です。それぞれの国が自国の郵便ポストをデザインして、両国で同じデザインの切手が販売されました（上は、ラ・ポストが発行した切手の画像。日本で発行された切手は一枚 70 円。）。日本のポストは、円筒状で投入口が一つしかない赤いポストがデザインされています。これは昔のポストで、現在では限られた場所にしか残されていません。現在のポストは、基本的に赤色であることは変わりませんが、フランスと同じように、四角く、投入口が二つあるものが一般的です。



日本の観光地では、ユニークなデザインの郵便ポストを設置しているところがあります。右の写真は、兵庫県高岡市にある兵庫県立コウノトリの郷公園に設置されているポストです。日本のコウノトリは絶滅危惧種で、国の特別天然記念物に指定されている鳥です。この公園ではコウノトリの保護と繁殖を行っています。コウノトリは「幸せを運ぶ鳥」と言われており、ポストには、「ここから 幸せ発信」と書かれています。時には、手紙を書いて、切手を貼って、手紙の宛先の人の幸せを願いながらポストに手紙を投函してみたいと思います。

